

食売女奉公人年季切増証文之事

一、此つね申女子、我等娘ニ御座候処、先達而我等共人主請人ニ相立、去ル亥十一月二十一日より来ル酉年十二月晦日迄仲年九ヶ年一月余給金三十五両ニ相定、貴殿方へ食売女奉公ニ差出シ申置候処、実正ニ御座候、然ル処、此度金子急入用之儀御座候ニ付、来ル十二月晦日より亥二月晦日迄仲年一ヶ年二ヶ月、給金四両一朱ニ相定、只今連印之者立会、不残金子慥ニ受取申候、年季都合十一ヶ年三ヶ月、給金合三十九両一朱ニ相違無御座候、年季中何様之儀御座候共、無滞為相勤可申候、諸事本紙請状之通、少茂相背申間敷候、為後日年季切増証文、仍而如件

安政二年 下谷御筆筒町  
卯四月二十一日 勝五郎店 祖父人主 嘉 兵衛印

実母 右同居 武州豊嶋郡町家村百姓 親類受人 半兵衛印  
金杉村家持 口入 金太郎  
奉公人 ね(右)

旅籠屋 源 兵衛殿